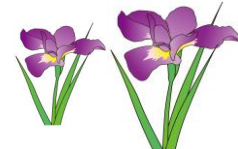
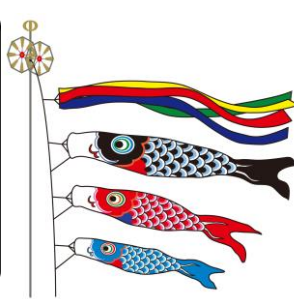


ほけんだより

臨時号（春）



3月末に沖縄県で麻疹(はしか)患者が発生し、その周囲に麻疹の発生が続いています。愛知県在住の10代の男性が3月末沖縄旅行後に麻疹に罹患しています。それに伴い、他県にも麻疹患者が発生する可能性があるということです。麻疹は感染力が非常に強いため、免疫を持っていない人には注意が必要です。まずは、麻疹についての知識を深めましょう。



麻疹を知ろう！



麻疹とは…麻疹ウイルスによっておこる感染症で、人から人へ感染します。

感染経路:空気感染、飛沫感染、接触感染

感染力:きわめて強い！麻疹の免疫のない集団に1人発症者がいたとすると20人が感染します。
(インフルエンザは1~2人)

感染したら90%以上の人が発症します。

潜伏期間:9~12日間と長い潜伏期間があります。

① 感染	② 潜伏期間 約9~12日	③ 初期症状期間 (カタル期) 3~5日	④ 発疹期 4~5日	⑤ 回復期
				二次感染期間 約3日間

※②~⑤の期間は他人へ感染させてしまう期間です。

初期症状：発熱（38度前後の熱が出ます）、咳（上気道炎症状）、鼻汁、目の充血（結膜炎症状）
コプリック斑（口腔内に小さな白色の発疹が発現）
※初期症状は風邪症状によく似ています！

症状の特徴：カタル期を過ぎると熱が一時的に下がります。その後半日ほど経過すると発疹期にはいり、最も症状が厳しく現れます。発疹期では、全身に赤色の小さな発疹がでます。それに伴い熱が40度近くまで出ます。

発疹期3大症状：高熱（39~40度）
全身に赤い発疹の発現
発熱による脱水症状



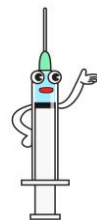
体感的に最も苦しい症状
が2~3日続きます

出席停止の基準：解熱後3日間を経過するまでと定められています。





麻疹の唯一の予防は予防接種！



麻疹の効果的な予防対策は予防接種による免疫(抗体)の獲得しか方法ありません。

罹患者は全くゼロではありません。日本では年間数十名の罹患報告があります。ただ、この麻疹による罹患は海外からの輸入麻疹といわれています。

罹患すると重篤な後遺症を残したり、命をおとすケースもあります。

2回のワクチン接種により、麻疹の発症のリスクを最小限に抑えることが可能！

予防接種の考え方

麻疹は発症すると効く薬がなく治療法がありません。さらに感染力もきわめて強く、症状も重症になりやすいです。

唯一、予防接種での予防が可能です。第1期の1歳と第2期の小学校就学前1年間の定期予防接種を徹底することが身を守る方法になります。

自分が感染しないためだけでなく周りの人に感染を広げないためにも予防接種は有効です。

これからの時代は、国内外への旅行者も増加し、海外から持ち込まれる例を発端とした感染拡大が懸念されま

自分にしっかりと免疫を獲得させ、「はしかにならない！はしかにさせない！！」ことが必要です。

2回の予防接種で抗体の定着がはかれます。

予防接種の副作用



* 局所反応⇒注射部位が発赤、腫れ、固くなったりする



* 全身反応⇒発熱、発疹(接種後すぐではなく、7~10日後に出現)⇒1~3日で治る

副作用は怖いですが、薬剤や治療法で副作用の無いものはありません。脳炎になることがまれにありますが、発症率は100万人に1人程度。これを見て、「ほら、やっぱり危ない！」と思わないでください。自然感染の脳炎の発症率はもっと高く1000人に1人です。それを考えると予防接種のほうがリスクは低いです。リスクの大きさと判断と選択が大事になると思います。各自でじっくり考えてみましょう。

抗体を持っていますか？



昔は、予防接種がなく、麻疹の罹患が多かったために免疫を持っている人が多いそうです。

1966年より麻疹の予防接種は開始されています。しかし、1978年に義務化されるまでは任意接種だったため、予防接種自体を受けていない人も多くいます。また、1回接種だったため抗体の定着も不十分でした。

1990年生まれ以降の人は、麻疹の予防接種が2回の定期接種になっています。2006年より麻疹の単体のワクチンから麻疹と風疹の混合のMR(麻疹風疹ワクチン)の2回接種が通常となりました。

抗体の定着には個人差がありますが、1回の接種では抗体の定着率は完全ではないため、1回しか接種していない場合には注意が必要です。

抗体があるかないかを調べるには、病院で採血をして調べるしか方法はありません。

また、MRの予防接種も定期接種の年齢を過ぎていると自費診療扱いとなるため、もし接種を希望する場合には病院に費用等は確認をしてください。